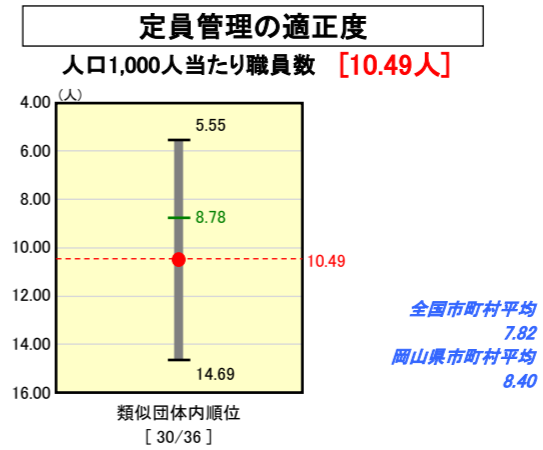
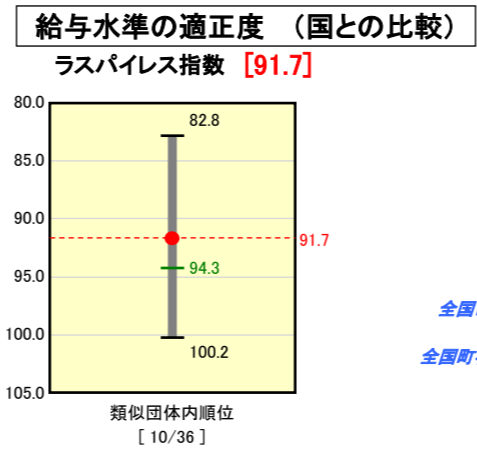
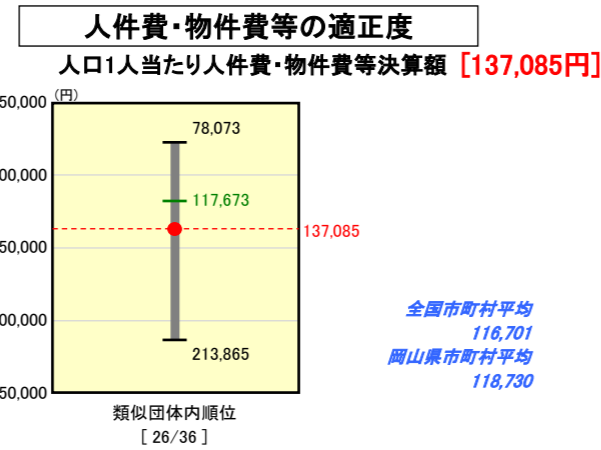
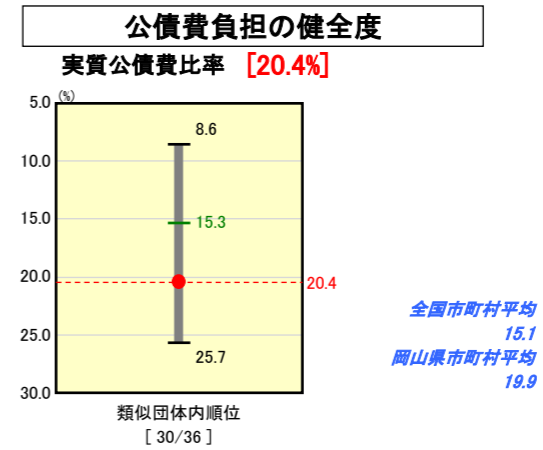
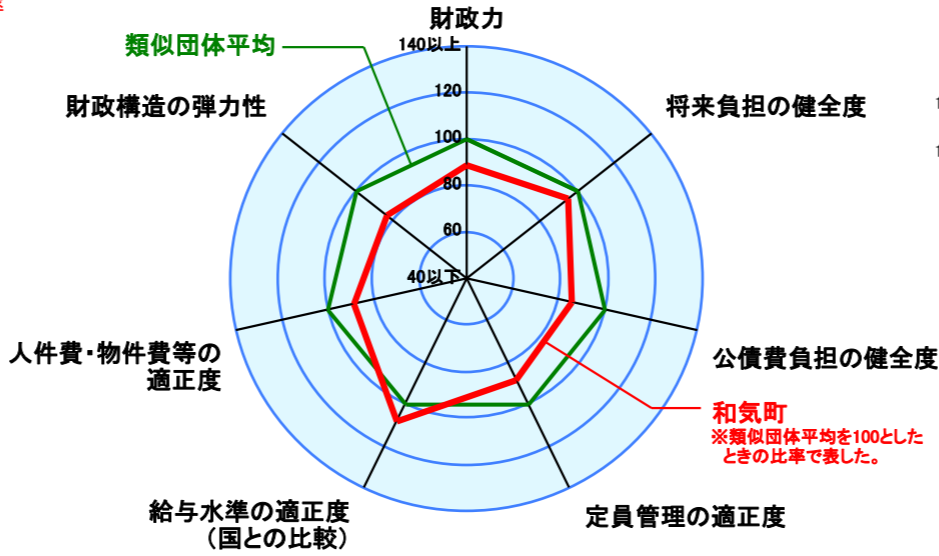
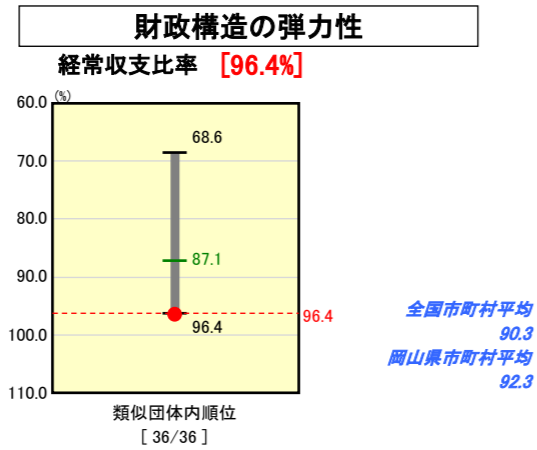
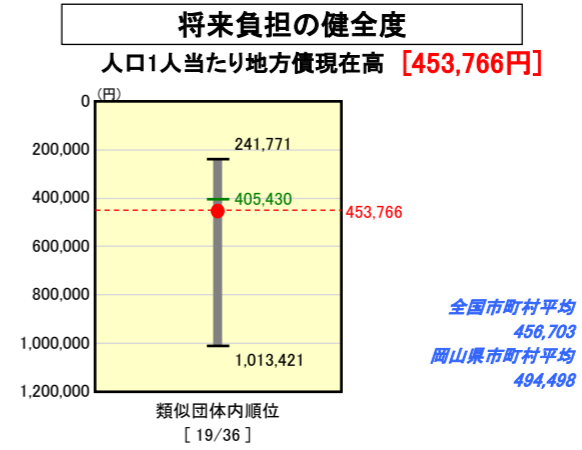
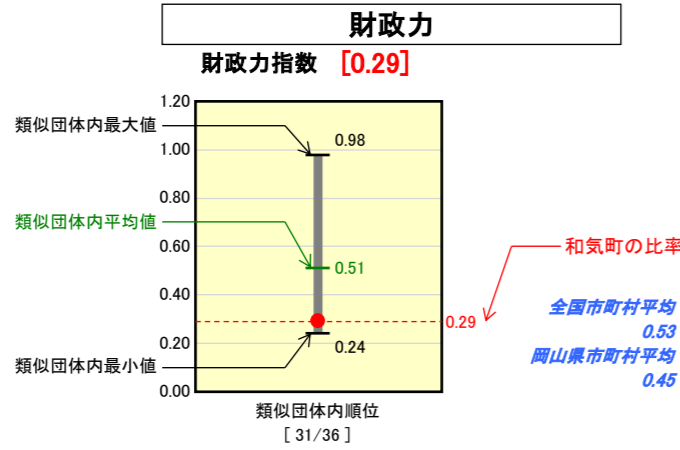


# 市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

## 岡山県 和気町

人口	16,390	人(H19.3.31現在)
面積	144.23	km <sup>2</sup>
歳入総額	7,874,929	千円
歳出総額	7,122,143	千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

【財政力指数】大規模事業所、主要産業等に乏しい地域であることに加え、人口の減少や高齢者の増加等により、財政基盤が弱く、類似団体平均を下回っている。雇用、税収の確保に努め、平成18年度より企業誘致対策事業を本格的に取り組んでいるところである。

【経常収支比率】前年に比べ指数は6.9%悪化した。これは、下水道事業経費の算出基準の変更が指数の悪化に大きく起因している。集中改革プラン等に基づく徹底的な事業の見直しや適正な定員管理等を行い、経常経費の削減に努めているが、歳出削減だけでは比率の改善が見込めない状況である。今後は、現在の集中改革プラン等に基づく歳出削減はもとより、税収の確保に努め健全な財政構造への転換を図る。

【ラスパイレス指数】類似団体・全国町村平均に比べ低い状況となっている。今後も給与適正化に努める。

【実質公債費比率】下水道事業に対する繰出金が非常に高い水準にあり、当比率を押し上げている。類似団体に比べ5.1%上回る20.4%となった。下水道会計の公債費は現在ピークを迎えているが、この状態は当分の間続いているため、比率は当面高い水準で移行すると見込まれる。今後、新規の起債発行については、公債費負担適正化計画等を基に、慎重かつ計画的に行うよう努める。

【人口1人当たりの地方債残高】類似団体と比べ若干高い水準となっている。新規の起債発行については、抑制を行なっているところではあるが、今後さらに慎重に行なう必要がある。特に新町建設計画等にあるような起債発行を伴う事業についても、事業の必要性、緊急性を再考した上で、慎重かつ計画的に実施する。

【人口1,000人当たり職員数】類似団体平均と比べ若干多い状況となっている。部門別にみると一般行政部門については平均を下回る水準となっているが、教育部門の職員数が多く、なかでも施設数の多い幼稚園・小学校における職員数の超過が著しい。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】類似団体と比べ高くなっているのは、主に人件費を要因としている。今後、定員適正化計画等を基に適正化を図り、人件費の縮減に努める。また、物件費等については、近年徹底的な見直しによる縮減を図っているところではあるが、事業の見直し等により、今後更なる縮減に努める。